



カテゴリ:その他

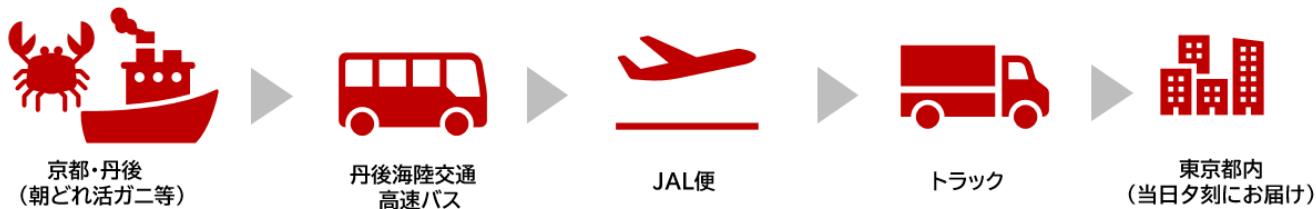
2026年1月30日

京都・丹後の最高級「間人(たいざ)ガニ」を生きたまま当日空輸します

～京都府・丹後海陸交通・JALが連携。既存インフラを繋ぐ新たな物流モデルの実証実験開始～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、以下「JAL」)、京都府、および丹後海陸交通株式会社(本社:京都府宮津市)は、2026年2月4日(水)に「幻」と称される高級ブランド「間人(たいざ)ガニ」などの活魚を、高速バスから航空機へとバトンをつなぐ貨客混載リレーにより、生きたまま首都圏へ水揚げ当日中に輸送する実証実験を行います。本取り組みは、JALと京都府が締結する「地域活性化包括連携協定」に基づき、地方の特産品に新たな価値を加え、都市部へスピーディーに届ける持続可能な物流インフラの構築を目指すものです。

京都・丹後 活魚 当日首都圏配送 物流の仕組み



背景と目的

京都府・丹後エリアは豊かな水産資源に恵まれていますが、首都圏への輸送には時間とコストがかかり、特に「活魚(生きた魚介類)」の鮮度維持と販路拡大には高いハードルがありました。

本実証実験では、丹後海陸交通の高速バス(陸路)とJALの旅客機(空路)という既存のインフラをシームレスに接続し、航空機への搭載を可能にした最新のエアレーション(酸素供給)技術を導入。物理的な距離の壁を克服し、地方の特産品を「最高の状態」で届ける新たな物流モデルの実用化を目指します。

本取り組みのポイント

1. 旅客機初！最新エアレーション技術による活魚の航空輸送

これまで航空法上の制限等により困難とされていた航空機での活魚輸送を、国内で初めて特殊エアーポンプ(通称:ブクブク)と専用容器を用いることで実現しました。

特別承認を得た空輸専用ポンプ「BUKU140」(※)により、輸送中も酸素を供給し続け、「海にいるのと変わらない環境」で空を飛びます。

(※)ダイトウブク株式会社製

2. バス×航空機 既存インフラを活用した「貨客混載」

丹後海陸交通の高速バス(宮津～伊丹空港)と、JALの定期便(大阪伊丹=羽田)の貨物スペースを活用。専用のトラックやチャーター便を手配するのではなく、「既存の公共交通機関」の空きスペースを有効活用することで、コスト効率と環境負荷低減(CO₂削減)に優れた輸送ルートを確立します。

3. 手荷物輸送のノウハウを活かしたハンドリング

振動や衝撃に弱い活魚に対し、JALグループがペットや精密機器の輸送で培った丁寧かつ迅速なハンドリング技術を適用。輸送ストレスを最小限に抑え、産地の品質をそのまま東京都内の消費地へ届けます。



JAPAN AIRLINES

**JAL AREA NEWS
NISHINIHON**

実証実験の概要

- 実施日: 2026年2月4日(水)
- 対象商材: 京都・丹後産 間人ガニなど(山一水産株式会社 提供)

輸送ルート:

1. 【バス】宮津駅(7:22発)⇒伊丹空港(9:24着)
2. 【航空機】伊丹空港(11:30発)⇒羽田空港(12:40着)
3. 【配送】羽田空港着後、東京都内の飲食店等へ配送(※)

※本配送には、JALCARGOと株式会社ルーフィーが展開する、空陸一貫型配送マッチングサービス「ハコJET」の仕組みを活用します。

JALグループは、これからも、人・モノの輸送を通じ、日本各地の素晴らしい食文化を届けるお手伝いをしてまいります。

以上